

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175300409		
法人名	(株)ワークサポート		
事業所名	グループホーム あさひ		
所在地	紋別郡遠軽町大通南2丁目1-21		
自己評価作成日	平成24年2月10日	評価結果市町村受理日	平成24年4月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の尊厳を重んじ、その人らしく暮らせるための提案、相談し、認知症があり、意思の伝達が困難な場合においても、意向や思いを探る努力をすることで、入居者の方々が安心、平穏に生活できるよう支援していく。また、商店街の中に立地されているため、商店街の方々と交流が図れるようイベント等の参加を積極的に行っている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0175300409&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成24年3月14日

グループホームあさひは遠軽町中心部に位置しており、家族が来訪し易く、又、買い物や近くの公園への散歩、図書館通い等利便性を活用しながら、利用者の自発性と可能性を重んじた本人本位のサービスを提供しています。地域住民や町内会とも良好な関係を築き、協力体制を構築しています。管理者が『この様な介護を』との思いを込めた理念は笑顔あふれる暮らしがキーポイントとなっており、実現に向けて利用者の思いを汲み取り、楽しく、毎日が笑顔で過ごす事が出来る様アクティビティを取り入れる等、工夫した取り組みを行っています。管理者は職員の資質向上に向けて外部研修への参加を促し、内部研修は職員の希望する内容を優先しながら充実を図り、学ぶ姿勢を育て、法人会社や事業所の資格取得も支援体制が取られています。事業所内は清潔が保たれ、居室、共有スペースは十分な広さが確保されて、季節毎の飾り付けや写真の掲示が家族的で明るく楽しい雰囲気となっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員採用時には、理念を伝え内容を説明し、「自分らしく生きる」を基本に置き、入居者の気持ちに寄り添い、「笑顔あふれる暮らし」が実践できるようスタッフは意見交換し、ケアの統一を図るよう努めている。	管理者が思いを込めて作成した理念を玄関、各ユニット事務所に掲示し、会議時に確認しながら共有に努めています。職員は利用者一人ひとりの思いを汲み取り、笑顔で毎日が過ごせる様に取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入、春、秋の清掃活動やイベント等に参加し、また近くの公園まで入居者の方たちと散策し、行きかう方々との挨拶で顔見知りとなっている。	町内会に加入し、町内会行事に参加する中で事業所の理解が得られており、散歩時に挨拶を交わす等交流に努めています。高校生ボランティアの訪問は利用者の楽しみとなっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所では、ヘルパーの実習生を積極的に受け入れ、人材育成に貢献できるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は年6回開催しており、施設の状況・行事等報告や運営についての質疑応答が行われ、出された意見を真摯に受け止め次の取り組みに活かせるように努めている。	利用者家族、近隣住民、民生委員、社協職員が参加して定期的に開催し、状況・行事報告、運営に関する質疑応答等話し合わせサービス向上に活用されています。行政職員、包括支援センター職員の参加を働きかけていますが参加が得られていない状況になっています。	情報交換と共有を図る為に行政職員や包括支援センター職員の参加を得る取り組みを重ねて行く事を期待します。又、議事録を利用者家族、参加者、職員で共有し事業所の理解に繋げ、更なるサービス向上に活用していく事を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	諸書類提出時に合わせて、介護保険担当者との接する機会があるため、入居者・請求関係等の問題点を話し合っている。	行政担当者とは介護保険制度に付いての相談や情報交換等常に連携に努めています。町主催の研修会への参加も取り組んでいます。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言を掲げ、勉強会でも意見交換しており、介護マニュアルと併用しながらケアを行っている。	管理者、職員は身体拘束をしないケアを理解し、安全上、見守りの為センサーマット等を使用する際は家族の同意を得ています。玄関の施錠は夜間のみとなっており、一人で外出する利用者には、さりげなく見守り、安全に配慮しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等を開催したり、スタッフ間で情報交換するなどして、見過ごさないよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き理解を深めるようにしている。また、対応が必要と思われる利用者がある場合は、随時、スタッフに説明、アドバイスをを行い利用者の支援に結びつくよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所のケアに関する考えや取り組み、退居を含めた対応可能な範囲について説明を行っている。入居者の状態変化により契約解除に至るときは、本人を交えて家族と対応方針を相談している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には、訪問時に近況報告や常に問いかけなんでも話してもらえるような雰囲気づくりに留意している。また、玄関には意見箱を設置し、意見、要望等は会議で話し合い、反映できるよう努めている。	家族の訪問時には利用者の近況を報告し、希望や要望等何でも話して貰えるよう心掛けています。寄せられた意見要望は会議で話し合い対応に努めています。2か月に一度ホーム便りを発行すると共に、毎月3名づつ順番に状況報告を送付しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員による二ヶ月に一度の全体会議での意思統一できる場を設けており、意見等には即回答で対応している。	代表者、管理者は毎月開催のユニット会議や2ヵ月毎の全体会議時、又、日常業務時に職員の意見要望を聞く機会を設け意見や提案を運営に反映する様努めています。内部研修は職員の希望を取り入れた内容となっています。	自己評価、目標達成計画は管理者が作成しています。運営推進議事録等を含め、代表者、管理者は更に職員と情報を共有し、運営に反映して行く事を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	疲労やストレスの要因について心配り、勤務時間中にも気分転換が出来るよう状況に応じて随時休憩してもらったり、職員同士の人間関係を把握するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加する機会を確保、ミーティング時に報告して情報を共有するようにしている。また、職員の資格取得を奨励、資質向上を目指して取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年一回ではあるが、包括支援センターの主催する介護事業所の会議へ参加したり、各関係機関の事業所等と交流を持つことにより、職員育成や日々のサービスの質の向上を目指している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するよう努め、事前見学してもらい、本人の求めていることや不安を解消できるように工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前見学してもらい、ご家族の要望を理解し、事業所としてどのような対応ができるか事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況を確認し、可能な限り柔軟な対応を行い、他のサービス利用も考慮して支援に繋げるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者は人生の大先輩であるという考えをスタッフが共有しており、普段から教授する場面を多くもてるよう工夫し、支援する側、される側という意識を持たずお互い協働しながら生活できるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添いながら、日々の出来事や気づいた情報の共有に努め、一緒に考え共に支えていくという姿勢を伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が来てくれたり、友人宅に電話をかけたりして、交流が続くように支援に努めている。	友人の訪問や、馴染みの理・美容院へ出掛けたりと利用者のこれまでの関わりを大切にし、家族の協力も得ながら支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係について、全てのスタッフが情報を共有し、日々の状態変化に気配りし孤立することのないよう、入居者同士の支え合いを引き出し、関係が円滑にいくよう働きかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス(契約)が終了しても、必要に応じて相談や支援に関わっていくことを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から問いかけ把握に努めている。言葉や表情などから、真意を汲み取り把握に努め、支援につなげている。	管理者、職員は利用者の生活歴の把握や日々の関わりを通し利用者の思いや希望の把握に努め、利用者の意思を優先した対応を心掛け、会議で話し合い情報を共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人自身の語りや、家族や友人の訪問時に話を聞き把握に努めている。また、プライバシーに関することなので十分に配慮するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活リズムを理解して、できないことよりできることに注目し、その人の全体の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の視点にたち、その人らしく暮らしていくために何を支援すればよいか、日々の関わりの中での気づきなどを情報交換し、本人の思いや意向を反映させた介護計画書を作成、現状に即しているか定期的に見直している。	利用者担当制を行い更に利用者向き合うことでより細かく利用者の状況や意向の把握に結びつけると共に家族の意向、医療関係者の意見を取り入れ、現状に即した介護計画を作成し、定期的に見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事、水分、排泄等記入、生活の様子も記録しており、情報共有を徹底している。また、記録をもとに介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かして、入居者にとって負担となる受診や入院回避、早期退院の支援、医療処置を受けながらの生活の継続が出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が安心して地域での生活が出来るように警察や民生委員と意見交換する機会を設けようと努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者・家族の希望する医療機関を受診、希望する利用者には訪問診療の支援もしており、医療連携体制の導入により、訪問看護も支援に含め密接に医療機関と連携が取れるようになっている。	受診はこれまでのかかりつけ医との関係を大切に支援をしていますが、他の市町村にある医療機関への受診は家族対応となっています。利用者の状態等で必要時には同行して対応に努めています。また月に2回往診を受け健康管理に役立っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関及び訪問医療野医師、看護師との連携も密にとれる体制が確保され、いつでも健康管理や医療面での相談・助言・対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供し、スタッフが見舞うようにして、家族とも情報交換しながら、回復状況等の把握に努め、速やかな退院支援に結び付けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認をし、ホームが入居者や家族に対して安心できる対応し得る最大のケアについて説明していくようにしている。	重度化した場合や終末期の看取りについては医療機関と連携をして事業所として取り組む方針である事を説明し理解を得ています。	医療機関と業務提携を結び連携の中で取り組む方向にありますが、体制づくりはこれからになっています。職員の研修や医師との情報共有等体制構築を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全てのスタッフが消防署の協力を得て、救急手当や心肺蘇生術の研修を実施し対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を繰り返し定期的に行っている。訓練の際には近所の方やご家族、運営推進委員の方にも参加してもらっている。	年2回消防署の指導のもと運営推進会議時に近隣住民や民生委員の協力を得て避難訓練を実施しています。一度は夜間想定や煙中訓練をし安全対策に努めています。	夜間想定を含めた訓練は実施していますが避難場所の確認や自動連絡網の整備、その他の災害の対策等の詳細な対策の構築を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議の折に、スタッフの意識向上を図るとともに、入居者の誇りやプライバシーを損ねない対応、日常的な確認と改善の徹底を図っている。	利用者にはさん付けの呼び方を基本とし人格を損ねないように会議で確認をしながら常に意識向上を図っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	複数の選択肢を提案し、自分で選択できるよう働きかけ、スタッフの押し付けがないよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、入居者一人ひとりの、その時の思いや体調に配慮しながら柔軟に支援していくよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣を大切に、馴染みの美容室へ行ったり、出かけるの大変だと感じられる方でも、ホームにて毛染めや散髪などできるよう対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃から好みのものを聞いて献立に反映できるようにしたり、同じ食卓を囲んで食事をしたり、調理・片付けもスタッフと一緒にできるようにしている。	生きがいのある快適な食生活を目指すとの給食計画のもと2、3種類からメニューを選択したり、お寿司を握る特別食にしたりと利用者の好みや希望を取り入れながら楽しい食事となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を記録し、偏りのない、それぞれに応じた量が摂取できるように調理も工夫して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内を他人に触られる、入居者の気持ちに配慮して、一人ひとりに応じた対応をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や習慣を把握できるよう、排泄チェック表を確認して尿意のない方にも時間を見計らって誘導することによりトイレで排泄できるよう支援している。	生活記録や排泄チェック表で時間やパターンを把握してさりげなく誘導しながらトイレでの排泄に心掛けて自立を維持できるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には繊維質の多い食材や乳製品を取り入れているよう配慮し、散歩、運動などで体を動かしてもらい自然排便できるよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	固定時間ではなく、13時から入浴したい時間を自ら決めてもらい、入浴可能な体制を設けている。	週2回を基本としその人の希望を考慮しながら入浴支援をしています。また、入浴日以外の日には手浴・足浴をして硬直の防止や他の疾患に対応した支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努め、一人ひとりの体調や表情、希望を考慮して夜間時には、ゆっくり休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、スタッフが内容をいつでも把握できるようにしている。服用時はスタッフ同士で確認したり、本人にも手渡し確認してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割や楽しみ、またはお願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの習慣に合わせて、近所の散歩等に出かけたり、入居者の希望が出された時は、実現するための方針をスタッフ同士で検討し、支援につなげている。	季節やその日の天候、また、利用者一人ひとりの習慣や希望に合わせて近隣の公園や夕涼み、ドライブと外出支援に努めています。また、近隣の商店へも気軽に買い物に出かけ気分転換に役立っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、小額のお金を持っている方もおり、ホームで管理している方でも、外出時にお金の支払うような場面では自分で払っていただくよう手渡しするなどの工夫をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状や暑中見舞いを出せるよう支援しており、入居者の希望に応じて日常的に電話が出来るようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗を洗う音、料理中の匂い、心地よい音楽、その月々によりジンギスカン、鍋料理、生寿司等、五感や季節感を意識的に取り入れる工夫をしている。	居間は明るく温湿度は快適な状態を保たれています。壁には桜の造花や写真が飾られ季節感を出し快適に過ごせるように工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダに椅子とテーブルを置き、一人で過ごしたり、日光浴をしたりして、くつろげるスペースをつくっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の好みや馴染みの物などを生活スタイルに合わせて用意し、カーペットやカーテンなどにも細やかな配慮がある。孫の写真や仏壇なども持ち込まれ、居心地の良い居室になるように配慮している。	それぞれの居室は箆笥やベット等の使い慣れた馴染みの家具等や、絵や色紙、写真などが飾られ居心地良く生活できるように工夫されています。また、呼び出しブザーが設備されており安心にも配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状態に合わせて、手すりや浴室、トイレ、廊下などの居住環境が適しているか見直し改善に取り組んだり、安全確保と自立への配慮をしている。		